

このガイドを取扱説明書より切り離し、スピーチプロセッサの使用時は、常に携帯しておくよう心掛けましょう。

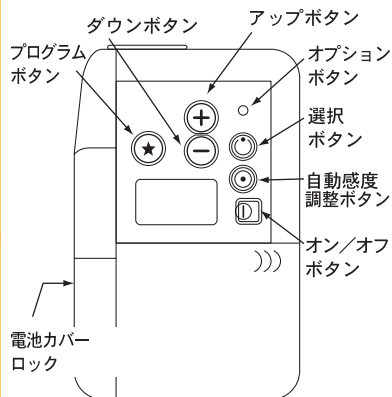
Nucleus®

人工内耳システム

操作ガイド

WinDPS でプログラムされる
SPrint™ スピーチプロセッサ専用

スピーチプロセッサ本体の コントロール・ボタン



スピーチプロセッサのオン/オフ

- スピーチプロセッサの電源を作動または停止させるには、オン/オフボタンを押します。

プログラムの選択

- プログラムボタンを押す毎に次のプログラムが順次選択されます。

スピーチプロセッサのリセット

- スピーチプロセッサの電源をオフにします。
- プログラムボタンを押しながら、スピーチプロセッサの電源を再びオンにします。

マイクロホン感度の調整

- 液晶パネルに **M** のシンボルが表われるまで、選択ボタンを押します。
- 値が8前後になるよう設定します。
- 感度を上げるには、アップボタンを押します。
- 感度を下げるには、ダウンボタンを押します。

自動感度調整機能の選択

- 自動感度調整ボタンを押してください。

音量の調整

- 音量のシンボル (◀) が液晶パネルに表われるまで、選択ボタンを押します。
- 快適な音量が得られるよう調整します。
- 音量を上げるには、アップボタンを押します。
- 音量を下げるには、ダウンボタンを押します。

ボタンのロック

- 液晶パネルにボタンロックのシンボル (🔒) が表われ、長いブザー音が1回聞こえるまで選択ボタンを数秒間押し続けます。

パーソナル／パブリックアラームの選択
オプションボタン穴に、ペン先など、細く尖ったものを挿入し、液晶パネルに適切なシンボルが表示されるまで繰り返し押し続けます。

以下のオプションから選択することができます：

- パブリック／パーソナル アラーム 共にオフ
- パブリック アラームのみオン (A)
- パーソナル アラームのみオン (B)
- パブリック／パーソナル アラーム 共にオン (A B)

適切なレベルの設定

送信コイルがインプラント上に正しく置かれていることを確認します。

- 周囲の雑音が大き過ぎる場合は、自動感度調整をオンにします。
- これでも効果が表われない場合は、自動感度調整をオフにして、マイクロホン感度を下げます。

この操作によって、音声小さくなり過ぎるようでしたら、音量を上げて調整してください。

- 周囲が静かで、自分の声が正しいレベルに保たれているのに話し相手の声が小さ過ぎる場合は、マイクロホン感度を上げてください。
- 自分の声も含めて、すべての音声小さ過ぎる場合は、音量を上げてください。
- 大きな音が、不快感を与えるほどに大きく聞こえる場合は、音量を下げてください。

それでもまだ解決できない場合は、建物や部屋の音響効果、周囲の騒音に原因があるのかも知れません。

そういった場合は、別の場所／部屋に移動しましょう。

電池交換の手順

1. まず、スピーチプロセッサの電源をオフにします。電池カバーロッ

クに親指の爪を掛け、後方に引きながら開けます。

2. 古くなった電池を取り出します。
3. 新しい電池を挿入します（電池の正しい方向は、電池ケース裏面の図を参照）。
4. 電池カバーを元どおりに閉じます。

トラブルシューティング

液晶パネルが、「電池交換」のシンボル (E) を表示した場合：

- 最初に、電池が正しく挿入されているか確認します。
- 電池が正しく挿入されていても同シンボルが表示される場合は、電池を交換する必要があります。

何も聞こえない、または音声途切れ途切れにしか聞こえない場合：

- まず、スピーチプロセッサの電源がオンになっており、液晶パネルに電池交換のシンボルが表示されていないことを確認します。

- ヘッドセットと接続ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- コイルが、インプラント上に正しく置かれていることを確認します。
- マイクロホン感度を「10」に設定し、HS8マイクロホンに話しかけてみてください。

レベルメータが反応すれば、HS8マイクロホンは正しく機能していることを意味しています。

メータが音声に反応しない場合、接続ケーブルとコイルを順番に予備のものと交換して、同じ検査を行います。

それでもまだメータが反応しない場合は、病院までご連絡ください。